

小松島港潮風の記憶

小松島港は古くから天然の良港として知られ、
明治時代に行われた改修により
近代的港湾へと発展した。

In the Meiji era steel vessels had gradually taken over the role from wooden vessels in marine transportation, and accordingly deep-water ports were required. In 1899 Komatsushima Port was renovated, which made this city take the first step into a modern international port city.

明治になって次第に鉄船が増加するようになると、水深が浅いために入港できないという騒ぎとなり、明治三十二年（一八九九）海上輸送の重要性と町の将来を考え村営で小松島港の改修を実施。これを機に本市は近代的港湾都市への第一歩を踏み出したのです。

藩政時代には元根井と和田島に番所が置かれ、小松島浦では藩札の引き受け方や紺屋、藍商人が多く活躍し、江戸や大坂との取引が行われ阿波の商業・金融の中心地として栄えました。

小松島港は、四国東部の紀伊水道沿岸のほぼ中央に位置し、古くから瀬戸内海、紀伊水道に接する四国屈指の天然の良港として栄えてきました。
牟夜戸（撫養）、奥湖とともに『阿波国風土記』の遺文に記述のある中湖（ナカノミナト）の比定地でもあり中世期には、勝浦川上流から切り出された材木が、水運を利用して小松島津に運ばれていました。十四世紀、瀬戸内海で活躍していた小松島の船は、海賊船と区別するため唐梅の旗を立てており、この由緒から唐梅は昭和九年まで小松島町の紋章となっていました。
藩政時代には元根井と和田島に番所が置かれ、小松島浦では藩札の引き受け方や紺屋、藍商人が多く活躍し、江戸や大坂との取引が行われ阿波の商業・金融の中心地として栄えました。



九州から運んできた石炭の荷揚風景（飯原一夫画）、昭和15年に臨港鉄道敷設（昭和60年廃止）